

地域住宅生産者グループ 大崎建設グループ

地域型復興住宅の名称	対象となる地域
Mハウス（宮城の、未来の、身の丈に合った家）	大崎地方および県北地域

グループの特徴とメッセージ

昨今の震災において大崎市内では、住家の被害は全壊が 566 棟、大規模半壊が 232 棟、半壊が 2087 棟と大変大きな被害を受けました(大崎市災害情報より)。更に潜在的には、改修や改築が必要とされている家屋が多いことは想像に難くないでしょう。この絶対数の多さを一つずつ解消していくことがこの産業に関わる人々の復興に向けた宿命と言えます。一方で、近年の住宅の生産における地域振興というテーマも考えて欲しいと思います。大量生産、大量消費の時代から脱却し、生産者側への信頼と長期的なメンテナンスが重視されています。このような復興後も長期的に保全活動を行うことで、大工技術の継承・地元産業の活性化を狙うことが大きな目的です。

グループの基本情報

グループ名称	大崎建設グループ
所在地	宮城県大崎市古川荒谷字本町東 22-3
結成年月	2012 年 2 月
グループ形態	任意団体
主たる業態	建築工事
グループ構成 ※各事業者名 は別紙	合計 17 社 原木供給 : 1 社 製材 : 3 社 建材流通 : 3 社 プレカット : 1 社 設計 : 3 社 施工 : 10 社
代表者名	渡邊 昭弘(株式会社荒谷土建代表取締役社長)
主な受賞歴・ 活動内容等	特になし

地域型復興住宅の主な工法・価格帯

主な構造・工法	木造軸組工法
価格帯	1,000～1,500 万円
価格の基準面積	100 m ²
価格に含まない 項目	屋外工事費、外構工事費、設計料、諸手続費

グループ全体の施工実績（年間）

建設戸数*（木造戸建）	15 戸
うち地域材活用の住宅	5 戸
うち長期優良住宅	0 戸
グループとしての 施工実績	なし
グループとしての地域 型住宅の受注可能戸数	20 戸
自由記入欄 （上記以外の実績等）	500 万円以上の大～中規模リフォーム工事を 15 戸程度受注(年間)

※参画する施工業者の建設戸数の合計

連絡窓口

担当者名	渡邊 昭弘	メール	arya2632@eos.ocn.ne.jp
電話番号	0229-28-2632	F A X	0229-28-2039
ホームページ	なし		
自由記入欄			

地域型復興住宅

Mハウス

Mハウスのイメージと特徴

■住宅建築を通しての社会への還元

震災以前からグループ会社では地域を支えてきたことを誇りに思っています。この土地に何十年も住み続けてくれている住民の方々が、次の世代の社会になっても平穏に暮らせることこそが社会の和を繋いでいくことです。その為にも、まずは住宅に被害や老朽化、で住みにくくなった方々と安全で住みよい家と一緒に作りあげること。Mハウスは常に地元で風景の一部にある住宅であり続けます。



■高齢者の為の住まいづくり

大崎市においても、地域の過疎化・高齢化の問題は無視できない段階まで迫っています。そこでバリアフリーへの取り組みに重点を置いています。住みはじめはもちろん、5年後、10年後、30年後にはどういった住宅が住み手側に最良かを検討していく必要があります。その点では、十分なライフスタイルと一緒に考えていく事や、高齢化にも対応できる事、その上で地域内コミュニケーションを取れる住まいが理想的です。



代表的事例の概要

構造	木造軸組工法	床面積	1階：108.2 m ² 2階：71.5 m ²
設計	(株)仙北建設一級建築士事務所	施工	株式会社仙北建設
施工費	2500万円（設計費用は除く）	備考	—

設計方法や地域材活用に関する特徴

■ 在来軸組工法による住宅の設計

木造の構造材を用いた、在来軸組工法を中心に設計を展開します。杉や松は構造材として一般的な材種であり、地域の木材を使えることにも合理性があります。また、地震に対しての有効性を確保出来ると考えていて、それは、新耐震以降の木造住宅の被害はほとんどなかったことから言えます。

大崎地方では、地域材の振興がそれほど進んでいないという現状もあり、今回の取り組みが、一種の起爆剤になればと考えています。

主に活用している地域材について

地域材の名称	地域産構造材
樹種	杉、マツ
産地	宮城県
認証制度等	合法木材
主に取扱う材種	構造材
主に取扱う部材	柱材、梁材
自由記入欄	地域型復興住宅では地域産構造材を20%以上活用した住宅を供給します。

性能・仕様および施工方法等に関する特徴

■ 耐震性能・可変性能

重量の大きい礎石造などと比べて、地震に対して強いことが強みです。日本独自の木造工法であり、地域材の登場の機会が多いです。大規模な構造物には向いていない部分もありますが、一般の住宅には自由度が高く、低いコストで心地よい家を提供できます。同時に木造住宅の施工技術、大工技術の伝承にも一役買う形になると考えています。

また、RC造と違い、リフォームなどの改築、増築行為を容易に行えるという点もメリットです。将来的なプランの変更、低予算での依頼、年配の方々には新築工事の負担が多い場面も多々あり、そういった時に木造でのリフォームとしても可能性を探れます。

特にこの地域はバリアフリー化、老朽化への対処が急務であり、新築においても一世帯分の比較的小規模な住宅が必要とされているので、上記した高齢者向けの仕様を意識した作りになります。



地域住宅生産者グループ

大崎建設グループ・流通ネットワーク

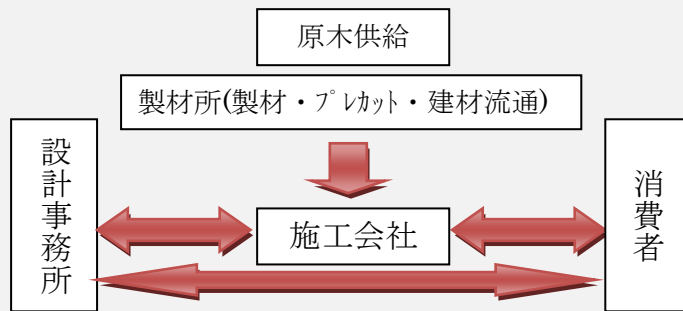
地域型復興住宅の生産供給や流通資材の調達に関する体制

■地産地消のサイクルを生むこと

グループ内には製材所も入っているため、安定的な木材の供給が可能です。また、人員についても、各社社員のほぼ100%が県内在住であり、生産力と同時に、継続的な雇用の確保、新たな採用による将来的な雇用の確保も挙げられます。材も人も含めたこのサイクルが生まれれば本当の意味での災害復興と言えるのではないのでしょうか。



宮城県地域型復興住宅生産・流通ネットワークの体制



施主からの相談体制および維持管理（アフターサービス）の体制・取組み

■地元密着のシステムづくり

地元の業者が施工を行うことにより、地元の業者がその維持管理を行うことは、その中でサイクルを生み、本来の意味での復興の基盤になります。

こういった仕組みをしっかりと作るこそが、施主からの要望に応えるスピード、そしてアフターサービスに欠かせない信頼関係の構築を強固なものにします。例えば、地域所縁の気候、地理、慣わし等は他所の土地の会社には必ずしも理解して貰えません。きめ細かなサービスという点が大きな強みです。

各グループ会社の担当者を窓口にしており、気軽に見積もりや相談を受け付けます。



